

加藤まち子（松戸区役所）

母子保健サービスは、住民に身近な市町村で実施されるのが理想である。特に市町村では住民の異動が早期に把握できるため対応がしやすい。例えば、婚姻届から新婚学級の対象を選び、出生届からは早期に新生児が把握でき、妊娠届時には早期に保健指導ができる。

松戸市ではすでに、市内各支所と市役所内健康相談室を設置し、市民課との連携でこれらの届出を活用している。又、妊婦健診・乳児健診・3才児健診と大きな費用とマンパワーを要する事業が加わってくると、老人保健法にとり組みつつある市町村では負担が大きすぎる。費用の軽減だけでは、一層委託化へ進んでいくことが懸念されます。費用軽減とともに人件費の問題が解決できるよう盛りこんでほしい。

妊娠前の母性の健康管理について

乳児死亡原因の大半を占めている先天異常を予防するには、妊娠前からの母性の健康管理が重要であるというところから、婚前・新婚学級を実施して13年を経過した。毎年、内容や運営方法に工夫をこらしながら、いかに対象をひきつけ成果を上げていくかで苦慮してきた。数字に表わされる程の大きな実績は見られないが、地道な活動として少しずつ市民に定着してきている。そこで、松戸市で行っている婚前・新婚学級の実状を報告し、妊娠前の母性対策を検討する上での参考にできれば幸である。

新婚学級のめざしているところは、生れてくる子供の心身障害の予防と健全な家庭を築くための学習の機会と、とらえている。

(1) 対象の把握は、従来は結婚前の男女に対しても行い、企業などへの働きかけをしていたが困難な点が多く、現在では婚姻届をして5～6ヵ月位までの夫婦と婚約中の男女を対象とし、PRは広報と婚姻届からの個別通知をしており、

申しこみは10%弱である。

(2) 内容と方法

6月、9月、11月、2月の年間4コースを実施し、9月コースは社会教育課とのタイアップにより平日の夜間に10日間行い、他の3コースは土曜日の午後3日間コースで行っている。

1日目は、男女の生理と妊娠の成立・妊娠初期のトラブル防止について産婦人科医師が担当し、同時に希望者には貧血検査・梅毒・血液型・風疹抗体価の検査を松戸保健所の協力により実施している。

2日目は、両親・家庭のあり方・子育てについて、心理・哲学の専門講師が担当。又、男女全員について血圧測定・検尿・個別相談を保健婦が行い健康管理について認識してもらう。

3日目は、ファミリープランニングについて、保健婦が担当し最後にグループワークをしてまとめている。

講義だけでなく健康管理にも重点を置き保健指導を行って今後の方向づけをしており、受講後の反応はとても良く、夫婦でこれからの生活設計について考えるよい機会になっている。

以上のような実施状況ですが、対象の把握が大変でPRの方法や個別通知の内容も工夫しているが大幅な参加の増加はみられない。

昭和58年には受講しない人の理由調査も行ってみたが、回答率も低く18%で、日時の都合が悪いという人が71%で最も多い。比較的参加できそうな日時をきいてみたが、その中では、土・日の午後が良いと答えた人が多かった。個別通知を見ている人は89%と多いのに対し、なおも参加者が少ないのは、今ひとつ、若いカップルをひきつける内容に欠けているのではないかと反省しながら改善を加えているところです。

昭和59年度の申込者数は176名、延396名が受講。1回平均23名出席、男性が3割弱、女性

が7割強となっている。傾向としては、年間を通して比較的参加しやすいのは2月のようだ。

以上が概要ですが、妊娠前の健康管理のためであれば、婚姻届から対象を把握するのは遅すぎるのではないか。最近の傾向では妊娠したから婚姻届を出すという人もあり、又、十代の妊娠が問題となってきたことも合わせて考えると、母性としての早期教育としてせめて義務教育終了時の中学3年生を対象とし、健康診査と合わせて性教育を中心とした保健指導を行い、同時に、健康手帳が渡されることにより自分自身の健康管理への動機づけとなるようにしたい。健診は男女ともに行い、一般的診査と、貧血・梅毒・血液型・総コレステロール・HB抗原・胸部X Pとし、結果は手帳に記録される。健康手帳は、15~20才まで5年間使用できるものとし、その他性教育を中心とした内容で、名称も若者にふさわしいものにする。健診記録の他、女性用には月経記録・BBT記録表を入れ、男女の体に関する知識・妊娠の成立・早期診断・中絶・避妊の方法・酒タバコと健康の関係・食生活と健康・その他行政や民間のサービス機関の案内などを盛りこむ。

表2 59年度新婚学級受講状況

実施月	申し込者数			受講者数(名)			備考
	男	女	計	男	女	計	
6月コース	21	29	50	30	39	69	
9月コース	12	34	46	35	155	190	10日間コース
11月コース	9	14	23	12	23	35	
2月コース	15	42	57	21	81	102	
計	57	119	176	98	298	396	
割合	32.4%	67.6%	100.0%	24.8%	75.2%	100.0%	

表3 59年度妊娠届からみた10代の妊娠

年令	届出数	届出時の週数			
		11W未満	12-19W	20-27W	28W以上
16歳	5	1		4	
17歳	15	2	5	5	3
18歳	22	3	12	5	2
19歳	43	9	25	9	
計	85	15	42	23	5
割合	100.0%	17.6%	49.4%	27.1%	5.9%
全妊娠届	6,265	3.24%	6.09%	4.6%	1.1%

表1 59年度健康相談室利用状況

届	妊婦	面接数	5847(95.7)
		非面接数	265(4.3)
		要継続指導数	661(10.8)
出	出生	面接数	4140(68.7)
		非面接数	1888(31.3)
相	妊婦	来所	682
		その他	2094
	産婦	来所	34
		その他	30
	乳児	来所	4655
		その他	2384
幼	1~3歳	来所	2529
		その他	705
	3歳以上	来所	703
		その他	227
成	39歳以下	来所	750
		その他	163
	40~64歳	来所	4190
		その他	306
	65歳以上	来所	1172
		その他	42
人	老人	来所	1331
		その他	15
	その他	来所	0
		その他	0
移	転出	来所	421
		その他	80
	転入	来所	976
		その他	180
動	転居	来所	188
		その他	37
計			36034

表4 風疹の予防接種状況

年度	52	53	54	55	56	57	58	59
対象	中学3年女子						中学2年女子	
接種率	76.0	84.8	81.8	80.6	89.8	87.9	90.5	80.5



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



母子保健サービスは、住民に身近な市町村で実施されるのが理想である。特に市町村では住民の異動が早期に把握できるため対応がしやすい。例えば、婚姻届から新婚学級の対象を選び、出生届からは早期に新生児が把握でき、妊娠届時には早期に保健指導ができる。松戸市ではすでに、市内各支所と市役所内健康相談室を設置し、市民課との連携でこれらの届出を活用している。又、妊婦健診・乳児健診3才児健診と大きな費用とマンパワーを要する事業が加わってくると、老人保健法にとり組みつつある市町村では負担が大きすぎる。費用の軽減だけでは、一層委託化へ進んでいくことが懸念されます。費用軽減とともに人件費の問題が解決できるよう盛りこんでほしい。